

図書館演習（令和 4 年度後期）の成果報告

中川 明日佳*1, 宮木 絵莉子*2

Report on Library Learning of 2022

Asuka NAKAGAWA*1 and Eriko MIYAKI*2

Synopsis: This is a report on the library learning of 2022. We look at how students' awareness has changed through the coronavirus[COVID-19] pandemic.

(Received Sep. 8, 2023)

Key Words: library learning

*2 産業技術短期大学 教務課 (図書館司書)

1. はじめに

本報告は、令和 4（2022）年度後期授業内で行った図書館演習についてまとめたものである。また、学生が作成した課題の内容から、新型コロナウイルス感染症（[COVID-19]. 以下、「コロナ」とする）に対する彼らの意識の変化についてもまとめた。

2. 授業の概要

まずは、授業の概要を以下に示す。

- 科目名: 国語基礎Ⅱ (一般教養科目, 一年次生対象)
- 開講時期: 令和 4 (2022) 年度後期
- 受講者数: 29 名 (機械工学科 14 名, 電気電子工学科 11 名, ものづくり創造工学科 6 名)
- クラス編成: 4 クラス (水曜 2 限 6 名, 水曜 3 限 11 名, 木曜 2 限 6 名, 木曜 3 限 6 名)

図書館演習は、全 15 回の授業のうち、3・4・12 回目に当たる週に行った。

*1 産業技術短期大学 非常勤講師 博士 (文学)

3. コロナ対策について

本演習は、前年度に引き続きコロナ対策を講じつつ行った。なお、以前の対策は昨年度の報告を参照されたい。

具体的には以下の通りである。

- 閲覧席を減らし、席が対面にならないよう配置
- 窓を開けるなど、常時換気
- マスク着用, 手指消毒の徹底
- 資料の消毒
- 混雑時は時間制による入場規制
- 掲示による注意喚起
- 授業用に使用する資料は予め専用のブックトラックに用意しておき, 不必要な接触を避ける
- ブックトラックには資料の他に専用のアルコール消毒液を用意し, 学生には資料を利用するごとに消毒を呼びかける
- 演習の説明は, 入館前に屋外で実施する
- 演習に関する話し合いは必要最低限とし, なるべく接触を減らす

- 演習の課題の提出は、期限を翌週までとし、授業時間外の空いている時間に図書館を利用して作成するのも可とする

4. 演習の成果

ここでは、演習における成果について述べる。図書館での演習は計3回おこなった。それぞれテーマを「漢字」「ことば」「自己表現」とし、そのテーマに従って、図書館内の資料を活用しながら演習を進めた。以下、4.1 から 4.3 に詳細を記す。

なお、今年度も図書館側の協力により 4.2 の課題及び 4.3 の課題は図書館内で展示された。その一例は右の通りである (Fig 1, Fig 2)。

4.1 漢字に関する演習

授業3週目にあたる回では、「漢字」をテーマとし、自分の名前を一字ずつ辞書で引き、意味を調べてまとめるという演習を行った。

辞書を引くことに慣れる、自分の名前に使われている漢字の持つ意味を知る、ということを目指とした。

4.2 ことばに関する演習

授業4週目にあたる回では、「ことば」をテーマとし、2022年における新語・流行語と思う語をあげ、その言葉の説明を自分で作成するという演習を行った。

時事問題に関心を持つ、なんとなく知っている語を自らの言葉で言語化する、ということを目指とした。

4.3 POPの作成

冬休み直前の授業12週目にあたる回では、「自己表現」をテーマとし、図書館の蔵書を1冊選び、その本を紹介するPOPを作成する、という演習を行った。ただ、実際には90分で1冊の本を読了することは難しいので、授業内ではPOPの説明や館内での本選びなどを行い、冬休みの間に課題を作成するよう指示した。

本に関心を持つ、伝えたい事柄を絵や言葉で表現する力を身につける、ということを目指とした。

5. 学生のコロナに対する意識の変化

「国語基礎」科目では、2014(平成26)年から継続して、その年における新語・流行語を考えるという演習を行っている。その中で、2020(令

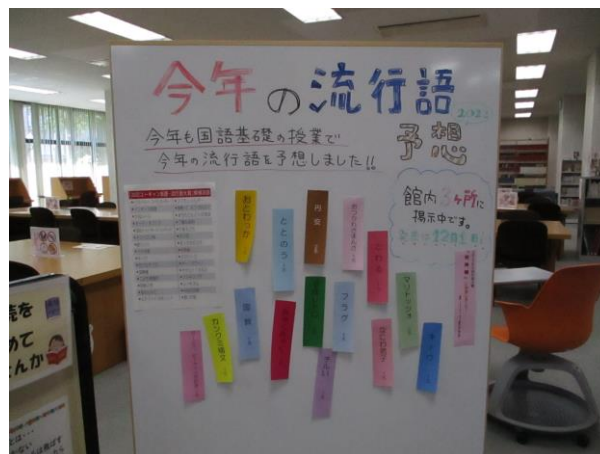


Fig. 1 Exhibition of Buzzwords 2022. 2)



Fig. 2 Exhibition of Buzzwords 2022.

和2)年4月に初めて全国に緊急事態宣言が発出され、日本全体がコロナに翻弄された。その影響の大きさは、当演習の課題においても見ることができる。

2020年の課題において、「新型コロナ」と書いた学生が23名、次いで「密です」13名、「三密」12名、「ソーシャルディスタンス」「アベノマスク」各10名と、コロナ関連の言葉が圧倒的であった。また、その内容も、社会的な距離を取るといった政策を取っていた当時の世相を反映す

るものであった。

例年、学生の回答が一つの言葉や話題に集中することは稀で、最多でも数名程度という結果になることが多い。その点、この年はコロナ関連の言葉が全回答の 7 割以上を占め、圧倒的であったことは特筆すべき事象だろう。

翌 2021（令和 3）年、最多だったのは「ワクチン」10 名で、次いで「まん防」（「まん延防止等重点措置」を指す）4 名であった。コロナのワクチン接種が始まり、世の中の規制が徐々に緩められてきた年であったことが窺える。

そして今回の 2022（令和 4）年において、最多は「SPY×FAMILY」「アーニャ、ピーナッツが好き」「はにゃ？」（いずれも 3 名）となり、コロナ関連の言葉は「変異株」1 名のみという結果であった。

以上、コロナ禍における学生たちの意識の変化を演習の課題の内容から追った。

6. おわりに

この原稿を書いている 2023 年 9 月現在、国の

コロナ対策が 5 類に移行して数カ月が経った。今夏、ニュースなどで「4 年ぶりに規制のない〇〇」といったフレーズが画面を賑わせたことは記憶に新しい。今年度後期の演習において、学生がどのような新語・流行語を取り上げてくるのか、今からとても楽しみである。継続することで見えてくる事柄を、今後も丹念に拾い上げていきたいと考えている。

なお、今回の図書館演習においても、本学教員の斎藤安輝先生から多くのご教示を賜った。ここに記して御礼申し上げる次第である。

参考文献

- 1) 中川明日佳・宮木絵莉子:産業技術短期大学誌, 56 (2023), 117-119.
- 2) 館内展示の写真はいずれも図書館提供